

東北

デング熱試験紙
ベトナムに輸出

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

東北大学発スタートアップのTBA（仙台市）はデング熱など感染症の遺伝子検査用試験紙をベトナムに輸出する。ベトナムの発売を目指す。

ナムはデング熱の患者数が多いが、現在主流の簡易試験は判定の精度が低く、高精度な遺伝子検査の需要を取り込む。5年後にベトナム向けで1億円の売り上げを見込む。

TBAが開発・製造している試験紙をホーチミンの製薬会社メビファームに輸出する。同社が簡易検査キットにしてベトナム国内のクリニックなどに販売する。ベトナムは保健省での登録後、デング熱の流行が始まる8月の発売を目指す。

TBAの試験紙は縦6センチ、横2センチほどの小さな紙。患者の血液と専用の試薬を使い、ウイルスの遺伝子に付けた色素を検出して陽性か陰性かを判定する。全部で1時間程度で結果が出る。中小規模のクリニックでもできる手軽さが特徴だ。

TBAが日本貿易振興機構（ジェトロ）の支援を受けてベトナムで実施した実証実験では、現行のイムノクロマト法と呼ぶ簡易検査は判定精度が54%だったのに対し、TBAの試験紙を使った遺伝子検査は95%だった。これまで遺伝子検査は大規模な病院でしか実施できなかったため、高精度で簡易的な遺伝子検査の需要は大きいと見込んでいる。デング熱以外にも、チングニア熱、シカ熱など複数種の感染症を判定できる。

TBAはこれまで試験紙を研究機関などに販売していたが、患者への実用化は初めて。今後、インドやインドネシア、中国向けの輸出開始も目指す。試験紙の汎用性を生かして結核や性感染症など幅広い病気の検査に対応する。TBAの現在の売上高は年間5千万円ほどだが、5年で海外向けを伸ばし、10億円まで伸ばす計画だ。

TBAはこれまで試験紙を研究機関などに販売していたが、患者への実用化は初めて。今後、インドやインドネシア、中国向けの輸出開始も目指す。試験紙の汎用性を生かして結核や性感染症など幅広い病気の検査に対応する。TBAの現在の売上高は年間5千万円ほどだが、5年で海外向けを伸ばし、10億円まで伸ばす計画だ。

TBAはこれまで試験紙を研究機関などに販売していたが、患者への実用化は初めて。今後、インドやインドネシア、中国向けの輸出開始も目指す。試験紙の汎用性を生かして結核や性感染症など幅広い病気の検査に対応する。TBAの現在の売上高は年間5千万円ほどだが、5年で海外向けを伸ばし、10億円まで伸ばす計画だ。



TBAが輸出する試験紙

東北大発TBA、判定精度高く

BAの試験紙を使った遺伝子検査は95%だった。これまで遺伝子検査は大規模な病院でしか実施できなかったため、高精度で簡易的な遺伝子検査の需要は大きいと見込んでいる。デング熱以外にも、チングニア熱、シカ熱など複数種の感染症を判定できる。



大熊町役場の近く、備される災害公営

先行解除の4町村 原

自治体では、暮らし関連の施設整備は途上だ。医療機関では、18年4月、富岡町に県ふたば医療センター付属病院が完成、救急医療で役立つが、高齢者が本来、かかりつけ医師として頼ってきた小規模病院はほとんどない。

大熊町も同様の課題の解決を迫られることになる。（福島支局長 田村竜逸）

東日本大震災で被災した沿岸部の工場移転は前年よりも4件減って7件。東北経産局の担当者は「復興需要が落ち着きつつあることが影響しているのでは」としている。

被災地では29件の宮城が最多で、福島（23件）、

地域経済

500調査

東北の景況感悪化

2年半ぶりマイナス 中国減速響く

日本経済新聞社がまとめた「地域経済500調査」によると、東北の景況感を示すDIはマイナス16.7と2年半ぶりにマイナスになった。半年前の前回調査に比べて29.4ポイント悪化。中国経済の減速で電子部品など生産が鈍化した。原材料や人件費の上昇も景況感を押し下げた。半年後のDIはマイナス2.4と悪化を予想し、先行きへの

懸念が強まっている。調査は各地の有力企業や事業所のトップを対象として2019年春に実施。全国で404人、東北では42人から有効回答を得た。景況感DIは半年前に比べて景況判断が「改善」から「悪化」の割合を引いた値。全国平均はプラス3.5。関東や甲信越、北陸など6

地域でマイナスだった。景況感DIは「改善」の割合は7%とどまった。悪化の兆しがある「悪化する」と回答したのは26%で、「悪化する」としたのは24%。業員の過不足では「不足」と「やや不足」を合わせた64%に上った。4月以降の外国人労働者の採用については14%の「早い時期に増やす」を検討」と回った。

お断り「東奔北走」

地域別の景況DI			
(DIは「改善」－「悪化」)			
	18年春	18年秋	19年春
全国	35.70	24.77	▲3.47
北海道	33.33	43.48	4.35
東北	10.00	12.77	▲16.67
関東	27.69	21.33	▲11.84
甲信越	48.28	12.90	▲20.00
北陸	36.36	38.46	▲8.00
北海道	42.86	38.57	▲1.56
中部	56.41	44.19	▲4.88
近畿	20.83	29.63	4.35
中国	53.85	30.00	7.69
四国	34.62	10.34	13.79
九州	30.43	10.71	8.33
九州	35.00	23.26	0.00

(注)▲はマイナス

支局

盛秋青仙
岡田森台
001172
118122
987222
682222
223222
352536
02341
134133

郡福山

山形形
00223
22443
44552
93222
83322
74207
74758